



日本百名山・りょうかみさん両神山 におけるトラスト地の取得について

命の源、水源の森を未来の子供たちへ

(公社)日本ナショナル・トラスト協会は、この度、埼玉県秩父郡小鹿野町にある両神山(標高1,723m)の山頂を含む約1,232haの森を取得しました。

これは、両神山麓の森を対象とした「両神山ナショナルトラスト・プロジェクト」を進めている(公財)埼玉県生態系保護協会との連携により実現しました。土地取得にかかる費用2億円は、篤志家の方々からの大口寄付をはじめ、会員や支援者の皆様からの寄付金を活用し、当協会と埼玉県生態系保護協会が共同で購入しました。

両神山は日本百名山のひとつで、全国から多くの登山者が訪れます。秩父多摩甲斐国立公園の一部を成していますが、その多くは個人所有の私有地です。今回のトラスト地化により、外国資本による買い占めや開発の心配はなくなります。

今後は、首都圏に住む人々の大切な水源の森や、多くの生き物を育む森として、古くから霊山として崇められてきた山岳信仰や修験道の歴史・文化的な価値も合わせて、この広大な豊かな森を将来の世代に引き継いでいきます。

10月1日は「土地の日」、10月は「土地月間」です。貴媒体を通じて、全国の皆様に、貴重な資源である土地の守り方や、国立公園内における土地所有のあり方について、考える機会を提供していただけると幸いです。



トラスト地の概要

所在地	埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄字両神
面積	12,318,917 m ² (登記簿面積)
地目	保安林
取得区域	秩父多摩甲斐国立公園(特別地域、普通地域)
取得日	2015年9月15日(登記完了日)
取得金額	200,000,000円

古来から山岳信仰の対象となってきた両神山は、多くの登山客に愛される日本百名山に数えられます。

取得地は、主要な登山口である日向大谷から、天理岳、辺見岳、そして標高1,700m超の山頂に至る、険しい峰々に囲まれた神聖な森です。

東京湾に注ぐ荒川水系薄川の源流域にあたり、一帯は秩父多摩甲斐国立公園特別地域に指定されています。

山腹に分布するブナやミズナラの自然林は、「声のブッポウソウ」として有名なフクロウの仲間「コノハズク」の県内で代表的な生息地となっています。また岩場には、春を可憐に彩るアカヤシオが見られます。



■ ナショナル・トラストとは？

多くの市民や企業の皆様からのご寄付をもとに、日本の美しい風景や野生の生き物の生息地を買い取り、守る活動です。

約100年前のイギリスで発祥し、日本では約50年前に鎌倉で始まり、知床、天神崎、柿田川など全国50以上の地域で取り組まれています。

■ 日本ナショナル・トラスト協会とは？

各地域で活動するトラスト団体と連携をとりながら、日本のナショナル・トラスト活動を推進する全国組織です。

1992年の設立以来、自ら土地を所有してきませんでした。失われ続ける重要な自然環境の確保や、今後増加すると予想される土地の遺贈・寄贈の受け入れなど、新しい課題への迅速な対処が必要であることから、2007年より土地を積極的に取得しています。今回の土地取得で、当協会が保全するトラスト地は全国41カ所、計1,657haとなりました。

問い合わせ先

(公社) 日本ナショナル・トラスト協会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
Tel. 03-5979-8031 Fax. 03-5979-8032